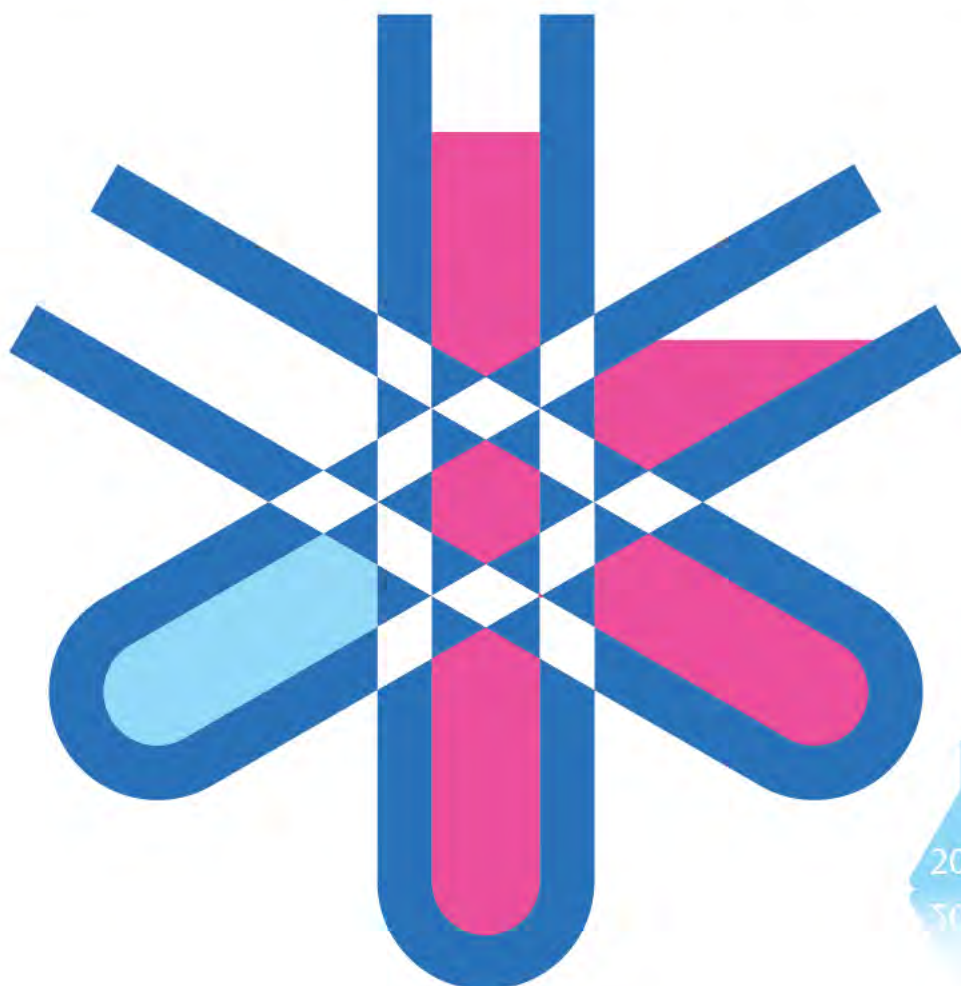


# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成24年8月号 目次

## 【トピックス】

平成23年度 家庭用品検査結果 .....	1
横浜市における2011/2012シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析 .....	3
海水浴場水質調査 .....	7

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成24年7月 .....	8
------------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成24年7月分) .....	13
-------------------------------	----

# 平成23年度 家庭用品検査結果

家庭用品担当では日常の生活用品である下着、靴下、帽子、床敷物、カーテンなどの繊維製品および家庭用の接着剤、塗料、エアゾル製品、洗浄剤などの家庭用化学製品について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき検査を行っています。

平成23年度に規格基準に関する検査で取り扱った検体数は69件、延検査項目数は256件でした。このうち規格基準を超えた検体はありませんでした(表1、表2参照)。

表1のうち、よだれ掛け8検体についてはホルムアルデヒドの基準超過違反に関する検査であったため、1検体につき3か所(ふち部分、表地、裏地)を採取して検査を行いました。すべて不検出でした。

表1 平成23年度 家庭用品検査検体内訳および検査結果

	検体数	違反検体数	検査項目数	ホルムアルデヒド 乳幼児用繊維製品*1	ホルムアルデヒド 乳幼児用繊維製品以外	塩化水素・硫酸	有機水銀化合物	デイルドリン	TDBPP*2	トリフェニル錫化合物	水酸化ナトリウム・水酸化カリウム	トリブチル錫化合物	BDBPP*3	DTTB*4	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	容器試験				
																		漏水試験	落下試験	耐酸性・アルカリ性試験	圧縮変形試験	
よだれ掛け	20	0	72	36			12			12		12										
下着	2	0	12	2			2	2		2		2										
中衣	10	0	30	10				10														
外衣	8	0	24	8				8														
手袋	1	0	6	1			1	1		1		1										
くつ下	7	0	42	6	1		7	7		7		7										
帽子	2	0	6	2				2														
寝衣	4	0	20	4				4	4					4								
床敷物	1	0	4					1	1					1								
家庭用接着剤	2	0	6				2			2		2										
かつら等接着剤	4	0	4		4																	
家庭用塗料	1	0	3				1			1		1										
家庭用ワックス	1	0	3				1			1		1										
靴墨・靴クリーム	2	0	6				2			2		2										
家庭用エアゾル製品	2	0	6												2	2	2					
住宅用洗浄剤	1	0	5			1													1	1	1	1
家庭用洗浄剤	1	0	7								1						1	1	1	1	1	1
合計	69	0	256	69	5	1	28	35	5	28	1	28	5	35	2	3	3	2	2	2	2	

\*1 ホルムアルデヒドは、乳幼児用繊維製品とそれ以外の製品で規格基準が異なっている(表2参照)。

\*2 TDBPP:トリス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト

\*3 BDBPP:ビス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト

\*4 DTTB:4,6-ジクロロ-7-(2,4,5-トリクロロフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾール

表2 家庭用品検査項目および規格基準

検査項目	用途	検査対象	規格基準
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤、 防菌防カビ剤	2歳以下の乳幼児用繊維製品	吸光度差が0.05以下または 16µg/g以下
		乳幼児用以外の繊維製品、 かつら等接着剤	75µg/g以下
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30µg/g以下
TDBPP	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと
BDBPP	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと
DTTB	防虫加工剤	繊維製品	30µg/g以下
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5%以下
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、 シミ取り	家庭用エアゾル製品	0.1%以下
		家庭用洗浄剤	
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、 シミ取り	家庭用エアゾル製品	0.1%以下
		家庭用洗浄剤	
塩化水素 硫酸	洗浄剤	住宅用洗剤	10%以下
水酸化ナトリウム 水酸化カリウム	洗浄剤	家庭用洗浄剤	5%以下
容器試験	洗浄剤	住宅用・家庭用洗浄剤	各試験(漏水、落下、耐酸性・ 耐アルカリ性、圧縮変形)によ る容器強度を有すること
ジベンゾ[a,h]アントラセン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10µg/g以下
		防腐・防虫木材	3 µg/g以下
ベンゾ[a]アントラセン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10µg/g以下
		防腐・防虫木材	3 µg/g以下
ベンゾ[a]ピレン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10µg/g以下
		防腐・防虫木材	3 µg/g以下

【 検査研究課 家庭用品担当 】



# 横浜市における2011/2012シーズンの インフルエンザウイルス流行株の解析

- 横浜市における2011/2012シーズンのインフルエンザの流行は、AH3型ウイルスと2種類のB型ウイルスによる混合流行で、過去10シーズンでは2番目に大きな流行でした。
- AH3型ウイルスの抗原性状は、ワクチン株の抗体と低い反応性を示す株が60.4%にみられました。HA遺伝子系統樹解析ではワクチン株とは異なるクレードに入り、さらに2つのグループに分かれました。
- B型ウイルスの抗原性状は、ビクトリア系統ではワクチン株の抗体と低い反応性を示す株が31.9%にみられましたが、系統樹解析では大きなアミノ酸変異はみられませんでした。一方、山形系統ではレファレンス株と類似株でしたが、系統樹解析では2つのクレードに分かれました。
- 抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH3型ウイルス株およびB型ウイルス株で耐性株による地域流行はみられませんでした。

## 【インフルエンザ様疾患の患者数】

2011年6月から2012年5月までにインフルエンザ定点(小児科91定点および内科59定点:計150定点)から報告されたインフルエンザ様疾患患者数は、定点あたり319人で昨シーズン同期の272人を上回り、過去10年では2009/2010シーズンの382人に次ぐ大きな流行でした。今シーズンは第2週(1月9日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数1.0人を超え、第5週(1月30日からの週)に46.3人とピークとなり、第7週(2月13日からの週)まで40.0人を越える報告数でした。その後、第12週(3月19日からの週)には12.8人と緩やかに患者数が減少し、第18週(4月30日からの週)に定点あたり1.0人を下回りました(図1)。

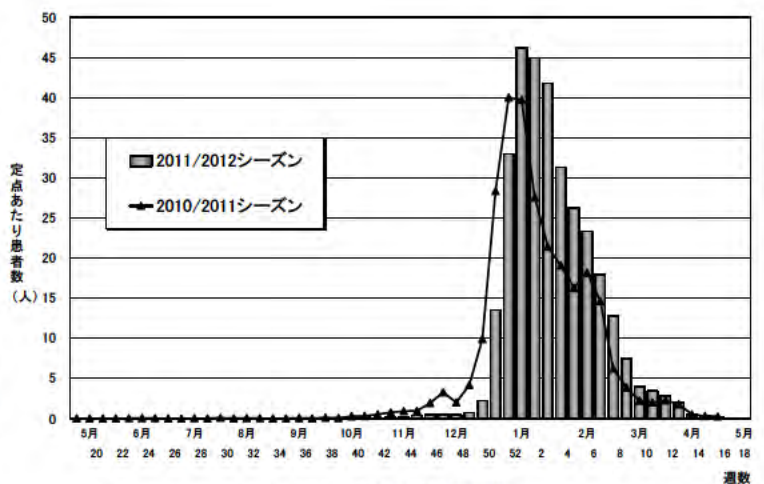


図1 定点あたり患者数

## 【病原体定点ウイルス調査】

2011年9月から2012年5月までの9カ月間に494件(鼻咽頭検体442件、便由来検体35件、気管支吸引液6件、嘔吐物3件、喀痰1件、不明7件)を検査し、AH3型ウイルス98件、B型ウイルス75件が分離・検出されました。このうち、重感染は、AH3型ウイルスとB型ウイルスの1件とAH3型ウイルスとアデノウイルスの2件でした。AH3型ウイルスは第41週(10月10日からの週)に港北区の定点からウイルス遺伝子が検出され、翌第42週(10月17日からの週)には磯子区の定点から初めて分離されました。その後、AH3型ウイルスは12月に入ってから分離され始め、第4週(1月23日からの週)をピークに第19週(5月7日からの週)まで分離・検出されました。一方、B型ウイルスは第2週(1月9日からの週)に磯子区の定点から山形系統のB型ウイルスが、第3週(1月16日からの週)に瀬谷区の定点からビクトリア系統のB型ウイルスが分離されました。B型ウイルスは両系統のウイルスが混在したまま、第9週(2月27日からの週)をピークに第20週(5月14日からの週)まで分離・検出が続きました(図2)。

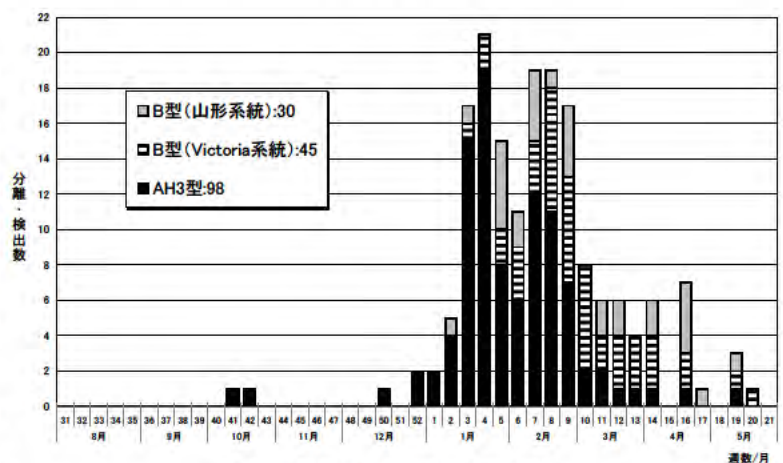


図2 病原体定点等分離・検出状況

【集団かぜ調査】

集団かぜ調査では、2011年9月7日(第36週)に旭区の福祉施設から非流行期の報告があり、AH3型ウイルス(ヘルペスウイルスとの重複含む)が分離・検出されました<sup>1)</sup>。その後、流行期に入った12月(第49週)には磯子区の小学校で集団かぜの初発が報告され、AH3型ウイルスが分離されました。年明け後は1月第3週に市内18区中11区に発生がみられピークとなりました。終息までの発生数は18区754施設1,085学級で、検査依頼のあった19集団75人についてウイルス学的調査を実施し、18集団はAH3型ウイルス、1集団はB型ウイルスが分離・検出されました(表1)。

【入院サーベイランス】

入院サーベイランスでは、2011年9月から2012年5月までの9ヶ月間に108件を検査しました。シーズン初めの10月には、タイからの輸入例でAH3型ウイルスが1株分離されました。最終的に分離・検出されたインフルエンザウイルスはAH3型ウイルス16件、B型ウイルス(ビクトリア系統)1件でした。このうちインフルエンザウイルスを確定した入院例は、脳症4例(AH3型ウイルス3件、B型ウイルス1件)、肺炎3例(AH3型ウイルス3件)で、死亡例はB型ウイルスが分離された脳症の1例でした。インフルエンザ以外のウイルスではコクサッキーウイルスB5型2件、エコーウイルス6型2件、ライノウイルス3件、コクサッキーウイルスB1型1件、アデノウイルス2型1件、アデノウイルス3型1件、RSウイルス1件、ヘルペスウイルス6型1件、コクサッキーA10型1件、パレコウイルス3型1件が分離・検出されました。

各調査期間の検査合計は677件で、AH3型ウイルス179件、B型ウイルス(AH3型との重複含む)73件が分離・検出されました(表2)。

表1 集団かぜ調査結果

発生年月日	週	区	施設	検体数	ウイルス分離		遺伝子検索					総合判定	
					型	分離数	分離陰性 検体数	HA遺伝子	N2	NA遺伝子	NA遺伝子		
2011. 9. 7	第36週	旭	福祉施設	5	AH3 <sup>1)</sup>	4	1	H3	1	N2	1	AH3	5
12. 6	第49週	磯子	小学校	3	AH3	2	1	陰性	0	陰性	0	AH3	2
12.14	第50週	西	小学校	5	AH3	4	1	陰性	0	N2	1	AH3	4
2012. 1.16	第3週	青葉	小学校	5	AH3	2	3	H3	2	N2	2	AH3	4
1.16	第3週	戸塚	小学校	5	AH3	1	4	H3	4	N2	4	AH3	5
1.17	第3週	鶴見	小学校	5	AH3	4	1	H3	1	陰性	0	AH3	5
1.18	第3週	都筑	保育園	3	AH3	2	1	陰性	0	陰性	0	AH3	2
1.18	第3週	港北	幼稚園	3	AH3	2	1	陰性	0	陰性	0	AH3	2
1.19	第3週	神奈川	中学校	4	AH3	4	0	— <sup>2)</sup>	0	—	0	AH3	4
1.19	第3週	瀬谷	小学校	2	AH3	2	0	—	0	—	0	AH3	2
1.19	第3週	南	小学校	5	AH3	3	2	陰性	0	N2	1	AH3	3
1.19	第3週	中	小学校	5	AH3	5	0	—	0	—	0	AH3	5
1.19	第3週	旭	中学校	5	AH3	5	0	—	0	—	0	AH3	5
1.20	第3週	栄	小学校	2	AH3	2	0	—	0	—	0	AH3	2
1.23	第4週	港南	小学校	3	AH3	3	0	—	0	—	0	AH3	3
1.23	第4週	緑	小学校	3	AH3	3	0	—	0	—	0	AH3	3
1.23	第4週	金沢	小学校	5	AH3	3	2	H3	2	陰性	0	AH3	5
1.24	第4週	保土ヶ谷	中学校	4	AH3	3	1	H3	1	N2	1	AH3	4
1.31	第5週	泉	小学校	3	B	3	0	—	0	—	0	B	3
合計		18区	19施設	75件	AH3:54株 B:3株	57株	18件	H3	11件	N2	10件	AH3: 65件 B: 3件	

1) 1件はヘルペスウイルス1型との重複感染 2) 遺伝子検査のうち—は未実施



表2 インフルエンザウイルス分離および遺伝子検査結果

各調査項目	検体数	陽性数	AH3型	B型
病原体定点等調査*	494	173	98 <sup>1)</sup>	75
クラスターサーベイランス	75	68	65 <sup>2)</sup>	3
入院サーベイランス	61	8	7	1
その他依頼検査	47	9	9	0
合計	677	258	179	79

1) AH3型とヘルペスウイルスの重複1件含む

2) AH3型とB型の重複1件、AH3型とアデノウイルスの重複2件含む

### 【分離株の抗原性】

分離株のHA抗原性状を今シーズンのワクチン株およびリファレンス株と赤血球凝集抑制試験(HIと略)のHI価で比較しました(図3)。AH3型ウイルスは39.6%(154株中61株)がワクチン株A/ビクトリア/210/2009とHI価が類似していましたが、HI価で8倍以上差があるウイルスが60.4%(93株)にみられました。B型ウイルスでは、ビクトリア系統のウイルスは68.1%(94株中64株)がワクチン株であるB/ブリスベン/60/2008と類似していましたが、HI価で8倍以上差があるウイルスが31.9%(30株)にみられました。山形系統のウイルスは90.0%(30株中27株)がリファレンス株であるB/バングラデシュ/3333/2009と類似した性状でした。

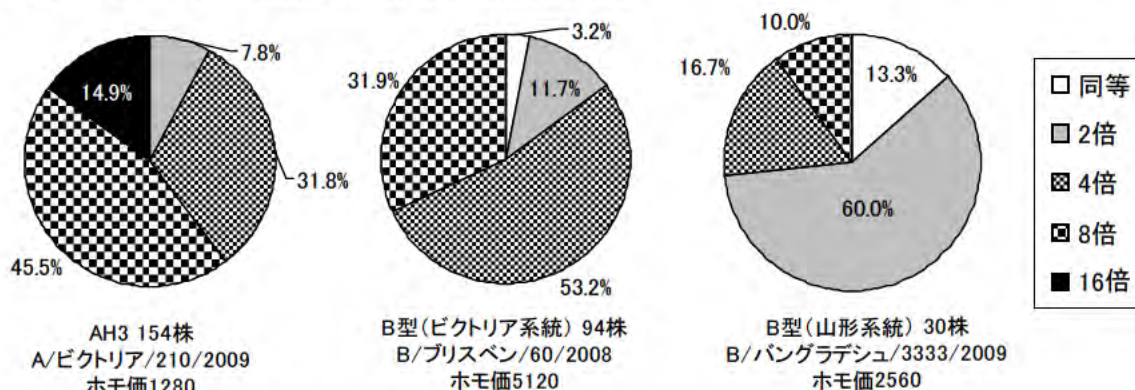


図3 2011/2012シーズン分離株の抗原性状(ワクチン株に対するHI価)

### 【分離株の系統樹解析】

抗原性に関与するHA遺伝子についてPCRで増幅後、ダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、Neighbor-joining法により系統解析を行いました。

今シーズン分離したAH3型ウイルスは、ワクチン株A/ビクトリア/210/2009を含むパース/16クレードから、212番目のアミノ酸がスレオニン(T)からアラニン(A)に置換した(以下T212Aと表示)ビクトリア/208クレードに入りました。さらにN312A、A198S、V223Iにアミノ酸が置換したグループ3Bと、S45N、T48I、Q33R、S278K置換したグループ3Cに分かれ、アミノ酸変異が進んでいました。後者のグループにはシーズン最初の9月に発生した旭区の集団事例や10月にタイから帰国した患者から分離した輸入例が含まれていました(図4)。

B型ウイルスの系統樹は大きくビクトリア系統と山形系統の2つの枝に分かれます。今シーズンの分離株はビクトリア系統では、N75K、N165K、S172Pの3つのアミノ酸変異を共通とするブリスベン/60クレードに入り、集団事例や流行が終息した5月の死亡例の分離株が含まれていました。一方、山形系統のウイルス株はS150I、N165Y、G229Dのアミノ酸置換が共通のバングラデシュ/3333クレードとR48K、P108K、T181Aのアミノ酸置換が共通のブリスベン/3クレードに分かれました。WHOの2012/2013シーズン北半球ワクチン推奨株には前者のクレードに含まれるB/ウィスコンシン/1/2012が選ばれました<sup>2)</sup>(図5)。



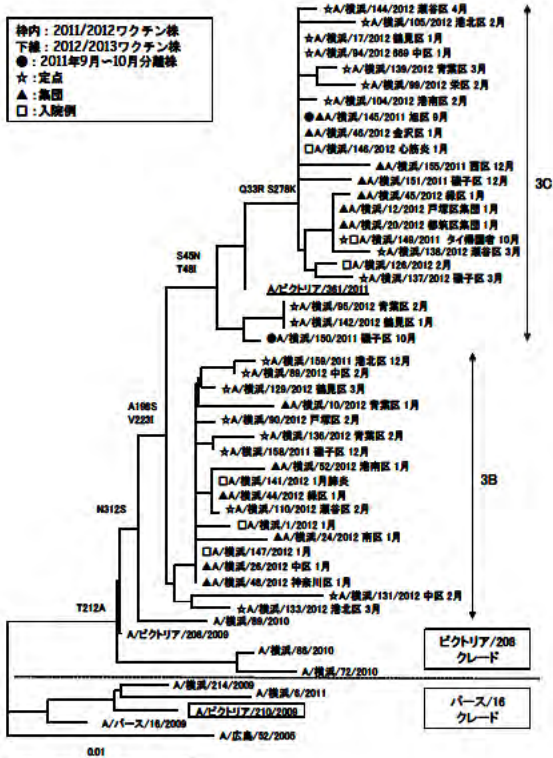


図4 AH3型ウイルスのNJ系統樹

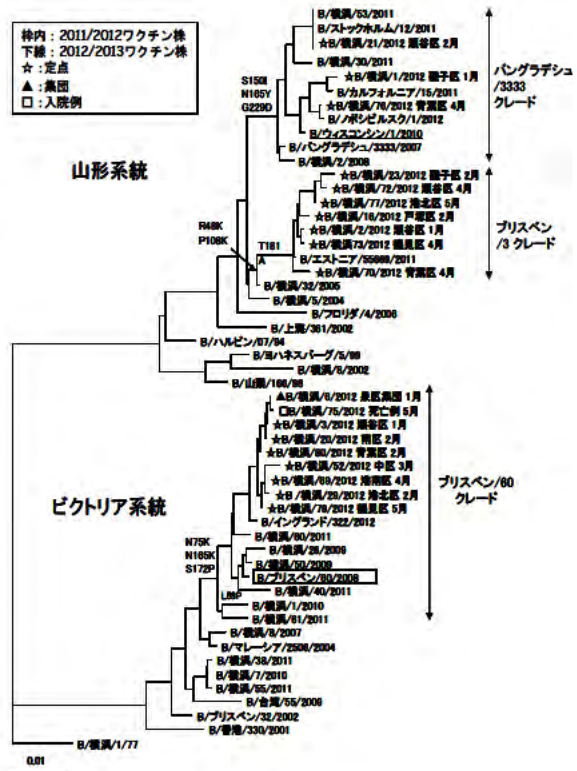


図5 B型ウイルスのNJ系統樹

【抗インフルエンザ薬感受性サーベイランス】

全調査で分離したAH3型ウイルス113株とB型ウイルス43株について、ノイラミニダーゼ阻害薬に対するNA遺伝子耐性変異部位を調べました。AH3型ウイルスはM遺伝子においてはアマンタジン耐性変異(S31N)をもっていますが、NA遺伝子では耐性変異はみられませんでした。また、B型ウイルスのNA遺伝子においても耐性変異はみられませんでした。

【おわりに】

横浜市におけるインフルエンザの流行はAH3型ウイルスと2種類のB型ウイルスによる混合流行であり、過去10シーズンでは2番目に大きな流行でした。AH3型ウイルスはワクチン株と反応性が低い株が多くを占め、B型ウイルスでは2004/2005シーズン以来大きな流行がない山形系統のウイルスが増えたことから、2012/2013シーズンのワクチン株が変更になっています<sup>2)</sup>。一方、AH1pdm09ウイルスは分離されませんでした。メキシコでは流行がみられ、今後も動向を監視する必要があります。今シーズンもオセルタミビル、ザナミビル、ペラミビル、ラニナミビルの抗インフルエンザ薬が使用されましたが、耐性変異したウイルス株はみられませんでした。耐性変異株の地域流行を迅速に把握するためにも、保健所や医療機関との連携が大切です。

参考資料

1. 国立感染症研究所. <速報> 横浜市内で発生したAH3亜型インフルエンザによる2011/12シーズンの集団かぜ初発事例. 病原微生物検出情報 2011;32:334-335. <http://idsc.nih.go.jp/iasr/32/381/pr3812.html>
2. WHO. Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2012-2013 northern hemisphere influenza season. Weekly Epidemiological Record 2012; 87: 83-95.



# 海水浴場水質調査



金沢区の「海の公園」は、市民に親しまれている横浜市で唯一の海水浴場です。5月（海水浴場開設前）及び7月（開設中）に環境省の依頼により検査を行い、調査結果を報告しました。

海水浴場水の採水は、健康福祉局生活衛生課が金沢福祉保健センター、環境創造局および公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。

## 1 対象施設及び試料

- (1) 対象施設 : 「海の公園」海水浴場
- (2) 採水日 : 平成24年5月8日・9日、7月9日・10日
- (3) 試料 : 「海の公園」沖3地点で、1日に2回(午前・午後)採水した海水 延4日間 計24試料

## 2 検査項目

水質評価項目および参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数 化学的酸素要求量(COD <sub>Mn</sub> )	病原性大腸菌O157、 一般細菌数、pH

## 3 検査方法

環境省通知で定められた方法で実施しました。また、COD<sub>Mn</sub>法については、日本工業規格K0102の17に定める方法で実施しました。

## 4 検査結果と判定区分

水質判定項目と参考検査項目の結果は表2のとおりでした。環境省への報告値は、5月と7月の各2日分の検査結果から環境省通知で定められた方法で算出し、その値によって適(「水質AA」、「水質A」)、可(「水質B」、「水質C」)、不適に区分されます。今年度の水質検査結果を水浴場水質判定基準で判定したところ、判定区分は5月7月ともに「水質B」でした。昨年度は5月「水質AA」、7月「水質B」でした。

表2 「海の公園」海水浴場の水質検査結果および環境省への報告値

採水日	5月		7月		環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	8日	9日	9日	10日	5月	7月	AA	A	B	C	不適
水質判定区分					B	B	AA	A	B	C	不適
油膜の有無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	有
透明度(m)	1.0以上	0.7	1.0以上	1.0以上	0.9	1.0以上	1.0以上	1.0~0.5			0.5 未満
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2 ~48	4 ~26	2未満 ~10	2未満 ~2	18	2未満	2未満	100 以下	400 以下	1000 以下	1000 超
COD <sub>Mn</sub> (mg/L)	2.5 ~4.5	3.9 ~6.5	2.8 ~4.2	3.2 ~4.8	4.4	3.6	2以下	5 以下	8 以下		8超
病原性大腸菌O157(/3000mL)	不検出	—	不検出	—	不検出	不検出					
一般細菌数(cfu/mL)	15~31	12~27	1~6	1~4	—	—					
pH	8.0 ~8.3	8.1 ~8.5	8.4 ~8.5	8.5 ~8.6	8.0 ~8.5	8.4 ~8.6					

【 検査研究課 水質担当 】

# 感染症発生動向調査委員会報告 7月

## 《今月のトピックス》

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- ヘルパンギーナの報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

## 全数把握疾患

### <腸管出血性大腸菌感染症>

7件(O26 VT1 4件、O157 VT2 2件、O157 VT1VT2 1件)の報告がありました。このうち、O26 VT1の3件は同一家族で、原因は現在調査中です。他の事例については、明らかな共通食や同じ店舗の利用などは現在のところ不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

### <デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

### <マラリア>

1件の熱帯熱マラリアの報告がありました。渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。

#### 海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

○夏休みに海外へ渡航される皆さまへ(厚生労働省検疫所)

<http://www.forth.go.jp/news/2012/07091539.html>

○2012年夏休み期間中における海外での感染症予防について(厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html)

### <レジオネラ>

肺炎型2件の報告がありました。どちらも70歳以上の高齢者で、尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は不明でした。

### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症1件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが、感染経路は不明です。

### <後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

AIDS 1件、無症候期1件の報告がありました。AIDSの症例では、同性間性的接触による感染が推定されており、感染地域は不明です。無症候期の症例では、異性間性的接触による感染が推定されており、イ

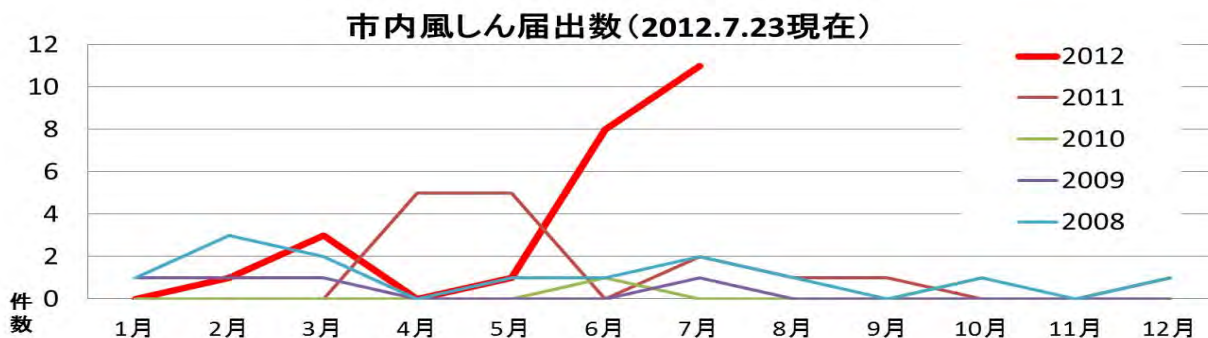
インドネシアでの感染が推定されています。

#### <バンコマイシン耐性腸球菌感染症>

1件のVanB型の報告がありました。現在、感染経路等を調査中です。

#### <風しん>

11件の報告がありました。6月以降、市内の届出が急増しており、既に昨年1年間の約1.5倍(24件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の30～40代の男性ですが、10～20代でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。



◆横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

#### <麻しん>

5件(40代2件、20代1件、幼児2件)の報告がありました。幼児2件では、どちらも予防接種でMR1期接種済みでしたが、他は予防接種歴が無いか、不明でした。全例で感染経路は不明で、周囲に他の感染者はいませんでした。麻しんの届出後に風しんの診断に差し替えになるケースもあります。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。

### 定点把握疾患

平成24年6月25日から平成24年7月22日まで(平成24年第26週から平成24年第29週まで。ただし、性感染症については平成24年6月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

#### 平成24年 週一月日対照表

第26週	6月25日～7月1日
第27週	7月2日～8日
第28週	7月9日～15日
第29週	7月16日～22日

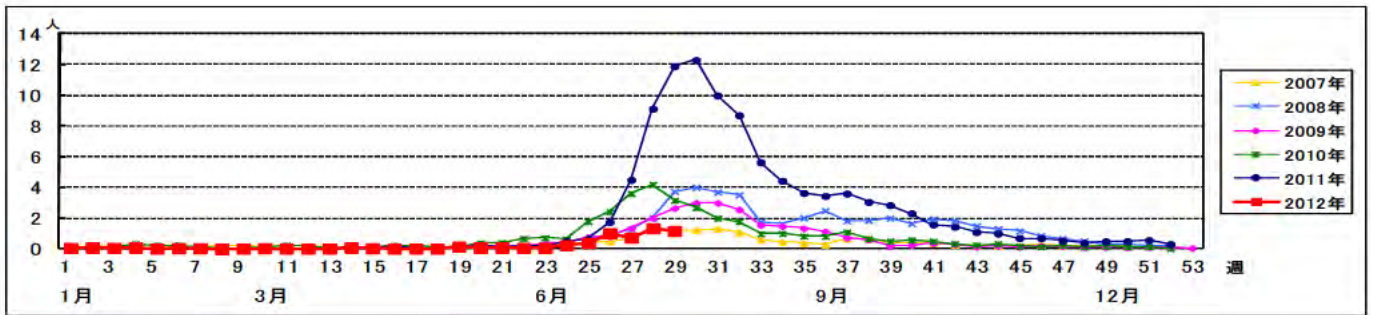
#### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

#### <手足口病>

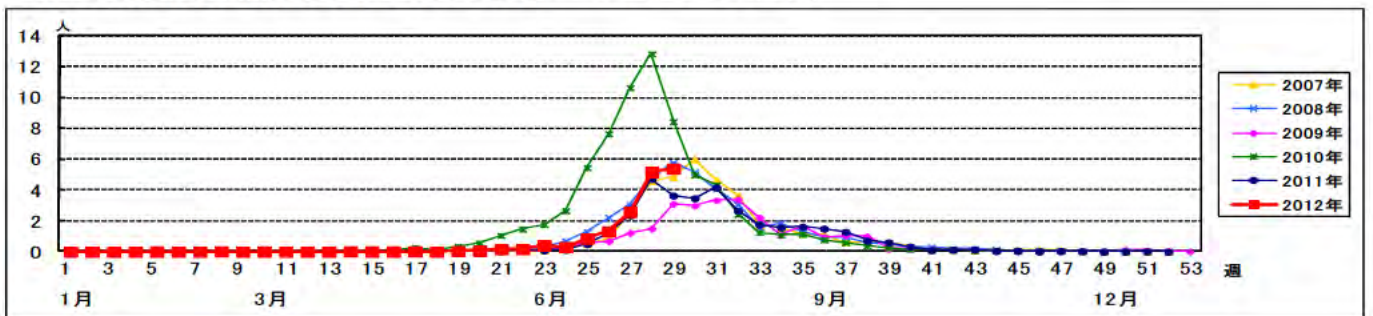
市全体で第29週1.18とやや増加しています。泉区9.00瀬谷区2.00で警報レベルとなっています。例年夏季に増加する疾患ですが、現在のところ、例年に比べ少ない報告となっています。





#### <ヘルパンギーナ>

市全体で第29週5.38と増加しています。神奈川区11.80、金沢区8.00、緑区12.00、青葉区6.14、栄区8.00、泉区7.00、瀬谷区13.50と7区で警報レベルとなっています。



#### <性感染症>

6月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が11件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が14件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。

#### <基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、第26週0.83、27週0.95、28週0.91、29週0.84と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第26週1.67、27週1.00、28週1.50、29週1.50と、前シーズンの第26週0.66、27週0.33、28週0.33、29週0.67をやや上回っています。第28週に無菌性髄膜炎(30代女性、病原体は未検出)が1件報告されました。第29週には細菌性髄膜炎(40代女性、髄液から原因菌検出されませんでした)が、頸部硬直等の神経学的所見、CRPおよびWBC上昇および髄液の細胞数上昇などの所見より細菌性髄膜炎との診断となりました。)が1件報告されました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

#### <基幹定点月報>

6月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件(鼻咽頭ぬぐい液28件、ふん便5件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点18件(鼻咽頭ぬぐい液11件、髄液6件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎20人、ヘルパンギーナ6人、胃腸炎5人、発疹症1人、手足口病1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ5人、脳炎脳症疑い3人、気道炎2人、無菌性髄膜炎2人、手足口病1人でした。

8月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス4型、基幹定点のインフルエンザ患者5人からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者2人からコクサッキーウイルスA(以下CA)2型、気道炎患者7人とヘルパンギーナ患者2人と手足口病患者1人の計10人からCA4型、ヘルパンギーナ患者3人からCA5型、発疹患者1人からCA9型、胃腸炎患者1人からサポウイルス、基幹定点の無菌性髄膜炎遺伝子患者1人からエコーウイルス7型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

7月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が11件、定点以外の医療機関等からは14件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2、O157:H- VT1&2、O26:H11 VT1)、カンピロバクターが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から4件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	7月			2012年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			7		2	21
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌					1	
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	3
カンピロバクター			5			7
コレラ菌						2
不検出	0	11	2	0	87	13

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	7月			2012年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				9		
T1						
T6	3			9		
T4				2		
T12				10		
T25				1		
T28				3		
T B3264				3		
B群溶血性レンサ球菌			1			14
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	3
<i>Legionella pneumophila</i>						1
インフルエンザ菌				6		2
肺炎球菌				2		
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
結核菌						3
<i>Mycobacterium avium</i>						1
不検出	1	2	4	16	8	32

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】



# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年6月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年7月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年6月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年7月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成24年6月)

平成24年6月の総アクセス数は、162,460件でした。主な内訳は、感染症67.9%、食品衛生11.8%、保健情報5.9%、検査情報月報4.8%、生活環境衛生2.2%、薬事0.9%でした。

### (2) アクセス順位 (平成24年6月)

6月のアクセス順位(表1)は、第1位が「サイトメガロウイルス感染症について」、第2位が「風しんについて」、第3位が「マイコプラズマ肺炎について」でした。

6月の総アクセス数は、前月比で約5%の減少となっています。今月は「風しんについて」のアクセス数が特に増加しました。ニュース等で報道されている通り、今年例年に比べて風しんが流行しており、横浜市内でも届出数が7月31日現在、昨年の1年間の約2.3倍(35件)となっています。

流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の30～40歳代の男性です。

サイトメガロウイルス感染症についても、6月の報道番組で特集されました。特に妊婦における感染が、胎児に影響を及ぼす危険性があることと、昔に比べて、免疫を持たない大人が増えてきていることが指摘されています。また、マイコプラズマ肺炎は、年間を通じて常にアクセス件数が多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第23週(6月4日～10日)で0.88、第24週(6月11日～17日)で0.82、第25週(6月18日～6月24日)で0.90と上昇し、第26週(6月25日～7月1日)で0.83と依然高い水準を維持しています。

表1 平成24年6月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	サイトメガロウイルス感染症について	13,840
2	風しんについて	13,120
3	マイコプラズマ肺炎について	6,558
4	衛生研究所トップページ	3,808
5	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,571
6	サルモネラ感染症(食中毒)について	2,441
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,289
8	百日咳について	2,207
9	アデノウイルス感染症について	1,990
10	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	1,911

データ提供:総務局IT活用推進課

## 厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html>

## 「風しん」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

「サイトメガロウイルス感染症」に関する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/cytomegalol1.html>

「健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について」の関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/ninshin1.html>

「百日咳」に関する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/whoop1.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ（平成24年7月）

平成24年7月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成24年7月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
食品添加物の表示について	1	検査研究課食品添加物担当
炭疽菌について	1	感染症・疫学情報課

## 2 追加・更新記事（平成24年7月）

平成24年7月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 平成24年7月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
7月 3日	感染症に気をつけよう(7月号)	追加
7月 4日	病原体定点からのウイルス検出状況	追加
7月20日	風しんの発生状況	追加
7月23日	熱中症情報について	追加
7月24日	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	更新
7月30日	横浜市における自殺の現状－神奈川県警提供のデータの解析－ (平成23年)	追加
7月30日	熱中症情報について	追加
7月31日	感染症に気をつけよう(8月号)	追加

【 感染症・疫学情報課 】